

WILCOMM

ウィルファイル

FIL003 (Last Update : 2002/8/26)

WilComm AS400 V7.15

Copyright 2000
K.I.S.S. Inc.



本解説書は、2002/8 以降に出荷された「ウィルファイル(WilFile)」ライセンス版のセットアップ方法及び、使用方法について述べています。

ウィルファイルは、AS / 400 のスプールファイルを PC データとして PC 内に保管する機能を提供します。

PC データ形式は、テキスト(.txt) 或いは、フォームオーバーレイを使用した PDF 形式の保管が選択できます。

使用方法につきましては、Distribution Wizard の設定を利用した場合について述べています。ウィルスプールAPI(WILSPOOL ユーティリティ)を使用したウィルファイルの使用に関しましては、マニュアル「ウィルファイルサービス」FIL001 を参照してください。

< 目 次 >

1. 事前セットアップ	3 ページ
2. Distribution Wizard 「サービス定義」について	6 ページ
保管ファイル形式 ~ 「全般」タブ	6 ページ
保管フォルダー名 ~ 「フォルダー名」タブ	7 ページ
保管ファイル名 ~ 「ファイル名」タブ	12 ページ
その他 ~ 「フォーム」, 「Indexing」	17 ページ
ダブルバイト文字に関する注意事項	18 ページ

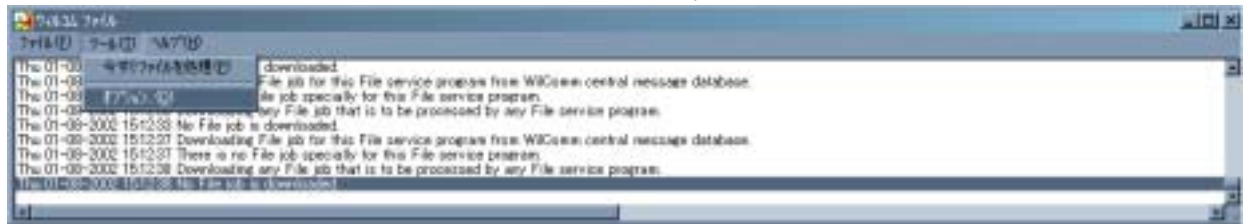
1. 事前セットアップ

(1) ウィルファイルを起動します。

「スタート」→「プログラム」→「WilComm Universal」→「WilFile」



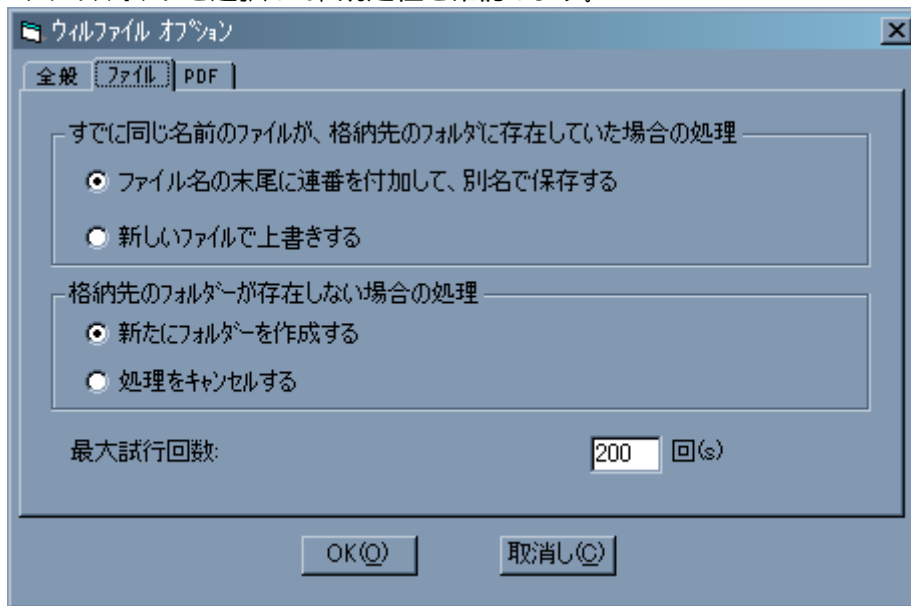
ツールバーの「ツール」→「オプション」の順に選択します。



ウィルファイル オプションの画面が表示されます。



「ファイル」タブを選択して、既定値を確認します。



<すでに同じ名前のファイルが、格納先のフォルダーに存在していた場合の処理>

「ファイル名の末尾に連番を付加して、別名で保存する」

同じファイル名が指定のフォルダーに存在していた場合は、自動的にファイル名の最後に番号を付番します。

例：保管しようとした際にファイル：QPRINT.pdf が存在していた場合、新しく保管されるファイルは QPRINT1.pdf という名前となります。

「新しいファイルで上書きする」

同じファイル名が指定のフォルダーに存在していた場合は、上書きされます。

<格納先のフォルダーが存在しない場合の処理>

「新たにフォルダーを作成する」

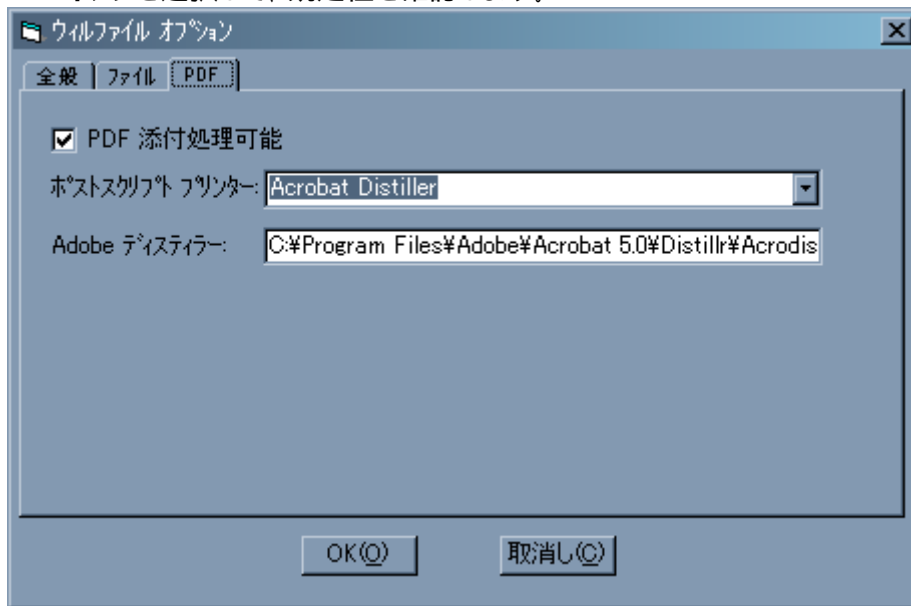
指定されたフォルダーが存在しなかった場合、新たに作成されます。

「処理をキャンセルする」

指定されたフォルダーが存在しなかった場合、該当ジョブをキャンセルしてAS / 400のメッセージリストにエラーを返します。

↓

「PDF」タブを選択して、既定値を確認します。



「PDF 添付処理可能」

フォームオーバーレイの機能を使用し、Adobe Acrobat の PDF 形式で保管する場合にチェックします。

「ポストスクリプト プリンター」

「PDF 添付処理可能」にチェックした場合、「Acrobat Distiller」を選択します。

「Adobe ディスティラー」

「ポストスクリプト プリンター」に「Acrobat Distiller」を指定した場合、Acrodist.exe の所在をフルパスで指定します。Adobe Acrobat 5.0 をインストーラのデフォルト値でインストールしている場合は修正の必要がありません。(C:\Program Files\Adobe\Acrobat 5.0\Distillr\Acrodist.exe)

「OK」ボタンを押して、ウィルファイルの事前セットアップは終了です。

2 . Distribution Wizard 「サービス定義」について

Distribution Wizard のセクション定義における動作条件の設定 (スプール属性を使用した条件設定及び、スプールデータを使用したデータ条件設定) については、通常の設定要領と同様です。動作条件設定については、マニュアルの「アドレス設定ガイド」AS0001 或いは「ウィルフォームス/フィールドマッパー/ディストリビューションウィザード」DES001 をご参照ください。

ここでは、Distribution Wizard のセクション定義におけるウィルファイル特有の「サービスの定義」について説明します。

「サービスの定義」で「**ファイル**」を選択すると、以下の画面が表示されます。

「**全般**」タブが選択されています。

「サービスプログラム」はデフォルトの「ウルコムファイル サービス プログラム」のままにしてください。

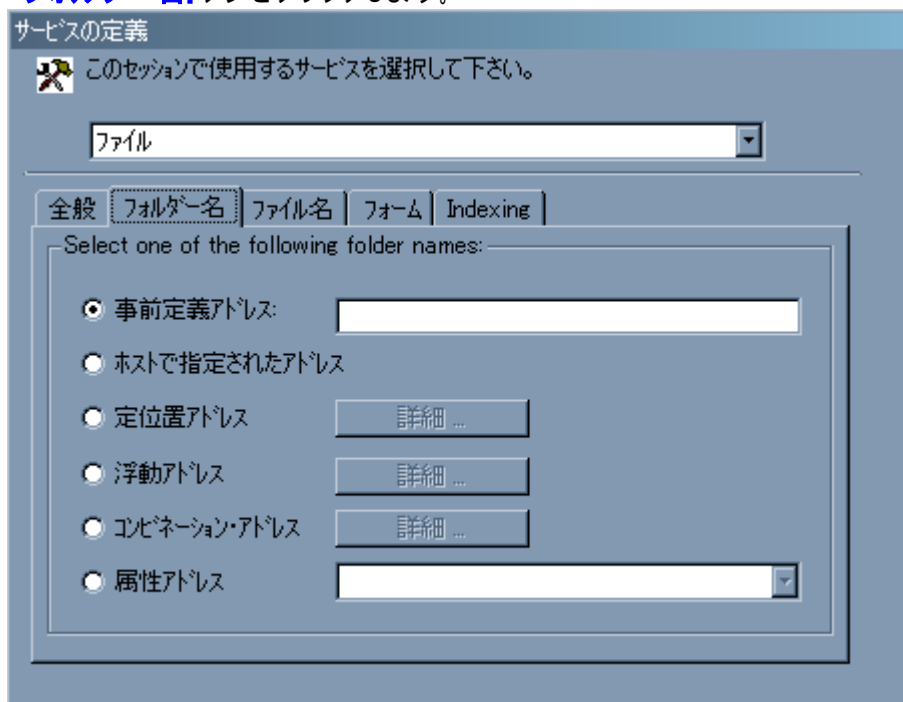
「印刷形式」

このセクションで生成される PC File を指定します。

PDF (Acrobat形式)の場合は、「スプールデータをフォームにマージして、PDF ファイルに変換して保管」を選択します。

TEXT形式の場合は、「スプールデータをテキスト形式で保管」を選択します。

「**フォルダー名**」タブをクリックします。



ここでは、生成される PC File を保管するフォルダー名或いはフォルダーパス名を指定します。

6通りのフォルダー名の決定方法がありますが、共通しているルールがあります。

「ドライブ名からの指定が無い場合は、ウィルファイルのフォルダー直下に指定フォルダーが生成される」ということです。ウィルファイルのフォルダーは、ウィルコムがインストールされているドライブが C ドライブ の場合、以下ようになります。

C:\Program Files\Wilkinson\WilComm Universal\File

「事前定義アドレス」

静的にフォルダー名を指定することができます。

(例:)

- (1) "CHUMON" → C:\Program Files\Wilkinson\WilComm Universal\File\CHUMON
- (2) "注文書" → C:\Program Files\Wilkinson\WilComm Universal\File\注文書
- (3) "注文書\A 社" → C:\Program Files\Wilkinson\WilComm Universal\File\注文書\A 社
- (4) "D:\注文書" → D:\注文書

「ホストで指定されたアドレス」

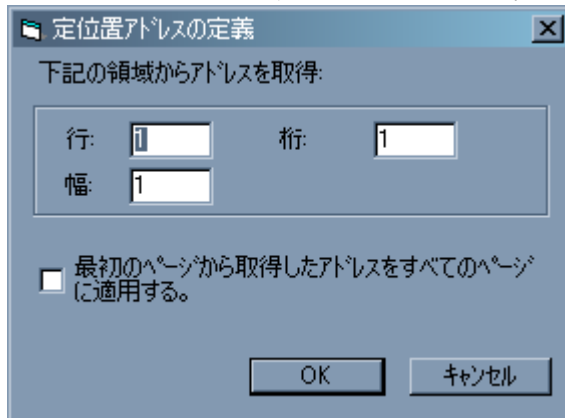
AS/400 側で OUTQ とリンクしている「サブクラスパー」の値が使用されます。

サブスクライバーの登録の際に、「サービスコード」=「WA」を指定してウィルファイルの保管フォルダー名を指定している必要があります。

「定位置アドレス」

スプールデータの決められた位置に印字されている文字列を使用して、フォルダー名或いはフォルダーパス名を決定します。

「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。



文字列の開始行、開始桁、桁幅を指定します。

「最初のページから取得したアドレスをすべてのページに適用する」にチェックすると、先頭ページから取得した保管フォルダーが、スプールファイル全ページに適用されます。つまり、スプールファイルの全ページが同一フォルダーに保管されることになります。

この「定位置アドレス」の指定が最も一般的かも知れません。

スプールファイル単位で保管をする場合は静的な値を使用するかも知れませんが、1つのスプールファイルの中にある条件を元に保管先を振り分けたい場合に有効です。

(例:)

100取引先に対する注文書のスプールファイル100ページを取引先別にフォルダーを分けて保管する。

■ はシフトイン・アウト)

“E:■注文書■A社■”のようにスプールデータの各ページに取引先名をフォルダー名とした保管先パスを印字しておき、この部分を「定位置アドレス」として指定します。

PC Server には以下のような取引先別フォルダーが生成され、100ページのスプールファイルはページ単位に別々のフォルダーに整理されて保管されます。

E:\注文書\A社

E:\注文書\B社

E:\注文書\C社

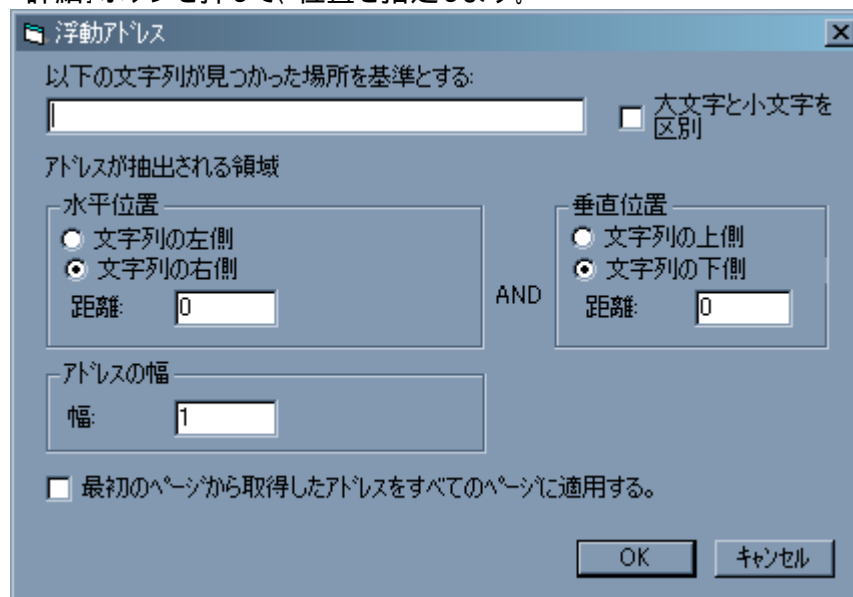
・
・
・

「ファイル名」タブでの指定で、保管ファイル名を日付別にしておけば、管理する上でも検索しやすい環境を構築できます。(13ページを参照)

「浮動アドレス」

スプールデータに印字されている文字列を検索して、その文字列から見て上下左右の位置に印字されている文字列を使用してフォルダーを決定します。

「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。



ここでは以下の例に従って説明します。

(例:)

フォルダー名はスプールデータ内に印字されているが、位置はページ単位に異なる位置とする。ただしその場合、フォルダー名の前には必ず「PATH」の文字列が印字されているとする。

■はシフトイン・アウト ■はスペース)

“PATH■E:■注文書■A社■”

このような場合、フォルダー名の印字位置が確定していなくとも「PATH」の文字列をスプールデータ内に検索して、その文字列の右側にある文字列をフォルダー名として使用することが可能です。

「以下の文字列が見つかった場所を基準とする」には、「PATH」と入力します。

フォルダー名の印字位置が「PATH」という文字列と、どのような位置関係にあるかを指定します。

「水平位置」で「文字列の右側」を選択します。この場合、「距離」は5となります。

「距離」は検索した「PATH」という文字列から何バイトの位置にフォルダー名があるかを示しています。

「PATH」の「P」の左側にカーソルを合わせて、右に1バイトずつカウントしながらスライドさせた場合、5バイト目が実際のフォルダー名の開始位置であることを示しています。

「垂直位置」は同一行にありますので、「文字列の上側」「文字列の下側」のどちらを選択しても「距離=0」であることを示しています。

「アドレスの幅」は、実際の幅を指定してください。

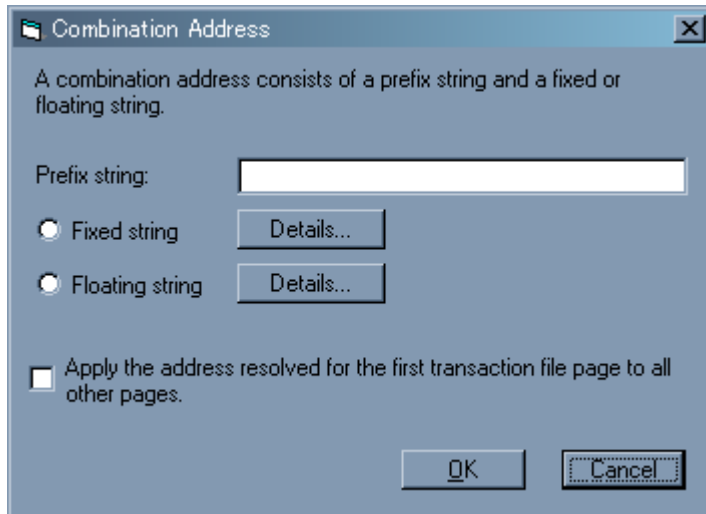
結果、「E:\注文書\A社」のようにフォルダーが作成されます。

「最初のページから取得したアドレスをすべてのページに適用する」は「**定位置アドレス**」の場合と同様です。

「コンビネーション・アドレス」

これは、「事前定義アドレス」と「定位置アドレス」或いは「浮動アドレス」を組み合わせた設定となります。静的に指定した文字列とにスプールデータ内に印字されている文字列を連結してフォルダー名或いはフォルダーパス名を決定します。

「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。



「Prefix string」に静的な文字列を指定して、「Fixed string」或いは「Floating string」の設定によりスプールデータ内の文字列とを連結させて、フォルダー名或いはフォルダーパス名を決定します。フォルダー名を連結させることも、フォルダーパス名を連結させることもできます。

(例:)

“注文書”の文字列の後に月を識別するスプールデータの文字列を連結させて、フォルダー名を「注文書5月」のように決定する。

「Prefix string」に「注文書」と入力します。

「x月」と印字されているスプールデータを「Fixed string」或いは「Floating string」にて指定します。

「Fixed string」或いは「Floating string」の設定方法は、8～9ページを参照してください。

この場合の結果は、ドライブ名の指定がありませんから以下ようになります。

C:\Program Files\Wilkinson\WilComm Universal\File\注文書5月

(例:)

“E:\注文書”というフォルダーの直下に月を識別するスプールデータの文字列を使用して、月別フォルダーを作成する。

「Prefix string」に「E:\注文書\」と入力します。

「x月」と印字されているスプールデータを「Fixed string」或いは「Floating string」にて指定します。

この場合の結果は、ドライブ名の指定がありませんから以下ようになります。

E:\注文書\5月

(注)

2002/8/31 時点の初期出荷版においては、「Prefix string」にダブルバイト文字を指定すると文字化けを起します。また、パス指定のフォルダーの区切りに使用する“\”は、“\\”となります。ただし、この問題は表示上の問題であり、処理結果には影響いたしません。

「属性アドレス」

スプールファイルの属性にセットされている文字列を使用して、フォルダー名或いはフォルダーパス名を決定します。指定できるスプールファイル属性は、Distribution Wizard の動作条件設定の場合と同様です。

スプールファイル属性項目でアプリケーション側で自由に設定が可能なのは、用紙タイプ (FORMTYPE) やユーザーデータ (WCUSDTR) 等かも知れません。しかし桁数の制限がありますので、細かい保管先コントロールには向いていません。

「ファイル名」タブをクリックします。

The screenshot shows a dialog box titled 'サービスの定義' (Service Definition). At the top, it says 'このセッションで使用するサービスを選択して下さい。' (Please select the service to use in this session.) Below this is a dropdown menu with 'ファイル' (File) selected. There are four tabs: '全般' (General), 'フォルダー名' (Folder Name), 'ファイル名' (File Name), and 'Indexing'. The 'ファイル名' tab is active. It contains the instruction 'ファイル名の決定方法を選択して下さい。' (Please select the method for determining the file name.) and several radio button options: '既存のファイル名を使用' (Use existing file name), '事前定義ファイル名' (Predefined file name), 'ホストで指定されたアドレス' (Address specified on host), '定位置アドレス' (Fixed address), '浮動アドレス' (Floating address), 'コンビネーション・アドレス' (Combination address), and '属性アドレス' (Attribute address). Each option except '既存のファイル名を使用' has a corresponding text input field or a '詳細...' (Details...) button. The '既存のファイル名を使用' option is selected.

ここでは、生成されるPC Fileのファイル名を指定します。

「既存のファイル名を使用」

ウィルコムが内部的に管理している処理番号がファイル名として使用されます。
“S0000000” ~ “S9999999” の範囲で自動的に決定されます。

「事前定義ファイル名」

静的にファイル名を指定することができます。

(例:)

(1) “CHUMON” → CHUMON.txt or CHUMON.pdf

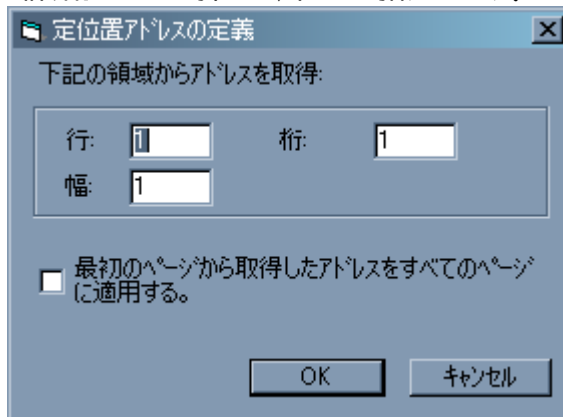
(2) “注文書” → 注文書.txt or 注文書.pdf

「ホストで指定したアドレス」

ここでの指定は使用できません。

「定位置アドレス」

スプールデータの決められた位置に印字されている文字列を使用して、ファイル名を決定します。
「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。



文字列の開始行、開始桁、桁幅を指定します。

「最初のページから取得したアドレスをすべてのページに適用する」にチェックすると、先頭ページから取得した保管ファイル名が、スプールファイル全ページに適用されます。つまり、スプールファイルの全ページが同一ファイルとして保管されることになります。

この「定位置アドレス」の指定が最も一般的かも知れません。

スプールファイル単位で保管をする場合は静的な値を使用するかも知れませんが、1つのスプールファイルの中にある条件を元に保管ファイル名を振り分けたい場合に有効です。

(例:)

8ページでの例で、100取引先に対する注文書のスプールファイル100ページを取引先別にフォルダーを分けて、更に日付別のファイルにして保管する。

“2002_05_31”のようにスプールデータに日付が印字されている場合、この部分を「定位置アドレス」として指定します。

PC Server には以下のような取引先別ファイルが生成され、100ページのスプールファイルはページ単位に別々のファイルに整理されて保管されます。

E:\注文書\A社\2002_05_31.pdf

E:\注文書\B社\2002_05_31.pdf

E:\注文書\C社\2002_05_31.pdf

・
・
・

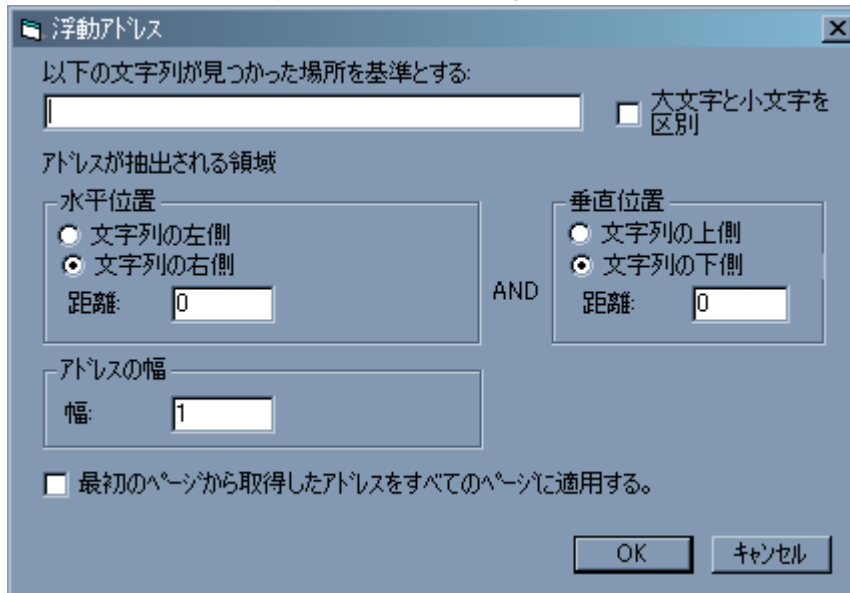
「フォルダー名」タブでの指定と組み合わせることで、管理する上でも検索しやすい環境を構築できます。

(8ページを参照)

「浮動アドレス」

スプールデータに印字されている文字列を検索して、その文字列から見て上下左右の位置に印字されている文字列を使用してファイル名を決定します。

「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。



ここでは以下の例に従って説明します。

(例：)

ファイル名はスプールデータ内に印字されているが、位置はページ単位に異なる位置とする。ただしその場合、ファイル名の前には必ず「FILE」の文字列が印字されているとする。

■はシフトイン・アウト ■はスペース)

“FILE■A社■”

このような場合、ファイル名の印字位置が確定していなくとも「FILE」の文字列をスプールデータ内に検索して、その文字列の右側にある文字列をファイル名として使用することが可能です。

「以下の文字列が見つかった場所を基準とする」には、「FILE」と入力します。

ファイル名の印字位置が「FILE」という文字列と、どのような位置関係にあるかを指定します。

「水平位置」で「文字列の右側」を選択します。この場合、「距離」は5となります。

「距離」は検索した「FILE」という文字列から何バイトの位置にファイル名があるかを示しています。

「FILE」の「F」の左側にカーソルを合わせて、右に1バイトずつカウントしながらスライドさせた場合、5バイト目が実際のファイル名の開始位置であることを示しています。

「垂直位置」は同一行にありますので、「文字列の上側」「文字列の下側」のどちらを選択しても「距離=0」であることを示しています。

「アドレスの幅」は、実際の幅を指定してください。

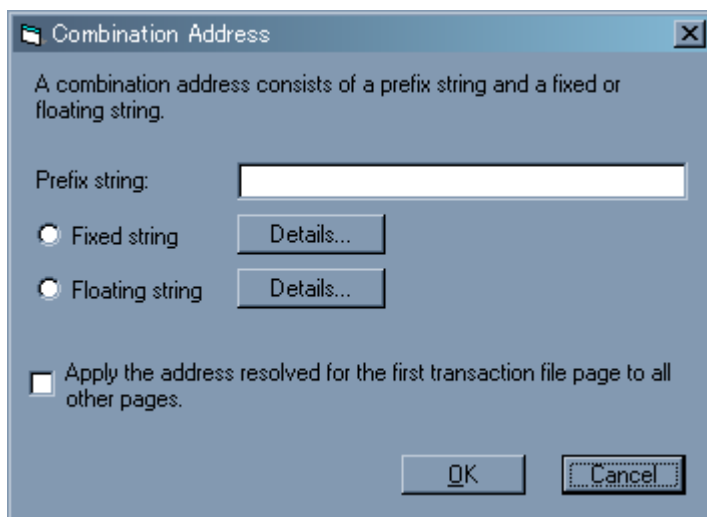
結果、「A社.pdf」のようにファイル名は決定されます。

「最初のページから取得したアドレスをすべてのページに適用する」は「定位置アドレス」の場合と同様です。

「コンビネーション・アドレス」

これは、「事前定義ファイル名」と「定位置アドレス」或いは「浮動アドレス」を組み合わせた設定となります。静的に指定した文字列とにスプールデータ内に印字されている文字列を連結してファイル名を決定します。

「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。



「Prefix string」に静的な文字列を指定して、「Fixed string」或いは「Floating string」の設定によりスプールデータ内の文字列とを連結させて、ファイル名を決定します。

(例:)

“注文書”の文字列の後に月を識別するスプールデータの文字列を連結させて、ファイル名を「注文書5月」のように決定する。

「Prefix string」に「注文書」と入力します。

「x月」と印字されているスプールデータを「Fixed string」或いは「Floating string」にて指定します。

「Fixed string」或いは「Floating string」の設定方法は、13～14ページを参照してください。

この場合の結果は、以下のようになります。

注文書5月.pdf

(注)

2002/8/31 時点の初期出荷版においては、「Prefix string」にダブルバイト文字を指定すると文字化けを起します。また、パス指定のフォルダーの区切りに使用する“\”は、“\\”となります。ただし、この問題は表示上の問題であり、処理結果には影響いたしません。

「属性アドレス」

スプールファイルの属性にセットされている文字列を使用して、ファイル名を決定します。指定できるスプールファイル属性は、Distribution Wizard の動作条件設定の場合と同様です。

スプールファイル属性項目でアプリケーション側で自由に設定が可能なのは、用紙タイプ (FORMTYPE) やユーザーデータ (WCUSDTR) 等かも知れません。しかし桁数の制限がありますので、名称から内容を判断できるようなネーミングは困難かも知れません。

「**フォーム**」タブをクリックします。

The screenshot shows the 'Service Definition' dialog box with the 'Form' tab selected. At the top, there is a dropdown menu set to 'ファイル' (File). Below it are five tabs: '全般' (General), 'フォルダー名' (Folder Name), 'ファイル名' (File Name), 'フォーム' (Form), and 'Indexing'. The 'フォーム' tab is active, displaying three input fields: 'フォーム名:' (Form Name), 'フィールド マップ名:' (Field Map Name), and '解像度:' (Resolution) set to 'ドRAFT' (Draft). There is also a checkbox labeled 'データのみ' (Data only) which is currently unchecked.

PDF 形式で保管する場合に使用する「フォーム」と「マッピング定義」を指定してください。

「**Indexing**」タブをクリックします。

The screenshot shows the 'Service Definition' dialog box with the 'Indexing' tab selected. The 'ファイル' (File) dropdown menu remains at the top. The 'Indexing' tab is active, showing a checkbox 'Indexing file is required' which is unchecked. Below it are three input fields: 'Indexing file printer:', 'フォーム名:' (Form Name), and 'フィールド マップ名:' (Field Map Name).

ここでの指定項目は全てウィルファイルの将来的バージョンに用意されたパラメータですので、現バージョンではご使用になれません。

ダブルバイト文字に関する注意事項

ダブルバイトを使用したスプールデータの文字列やスプールファイル属性を、フォルダー名やファイル名に使用する場合、AS / 400 上のシフトイン / アウトの処理上、若干の制限がございます。

Windows 環境ではフォルダー・ファイルのネーミングルールとして、名前の途中スペースが認められています。(例: Program Files)

ウィルコムは、AS / 400 上のシフトイン / アウトを全てスペースに置き換えて PC Server にデータを受け渡します。その関係で、例えばダブルバイト文字とシングルバイト文字を混在させた文字列を使用した場合にシフトイン / アウトが置き換わったスペースなのか、故意に指定したスペースなのかを PC Server 側ウィルコムは判断することが出来ません。

(■はシフトイン・アウト ■はスペース)

AS / 400 上の以下の文字列をフォルダー名に使用した場合、

E:\■注文書■020531

PC Server 上に作成されるフォルダーは、

E:\注文書■020531 (E:\注文書 020531 とはなりません)

PC Server 側ウィルコムは、パス指定の “\” の両サイドにあるスペースは、取り除いています。

この現象はこの時点では大きな問題にはならないかも知れません。

しかし、ウィルコムは PC Server 側で配信・保管した結果を AS / 400 に返しています。AS / 400 のメッセージリストには、上記パス情報がアップロードされます。

その際、ダブルバイト文字にはシフトイン / アウトが自動的に付加されますので、上記 PC Server での結果が AS / 400 にアップロードされた場合、AS / 400 のメッセージリストには、以下のパス情報が返されます。

E:\ ■注文書■020531

ここで、メッセージリストからの再送信を実行すると、PC Server 側には以下のフォルダーが作成されてしまいます。

E:\注文書■020531

途中スペースは 2 バイトになり、PC Server 上では別名フォルダーとして、新たなフォルダーが作成されてしまいます。つまり、再送信の度に異なる結果となってしまいます。

以上のことから、フォルダー及びファイル名を決定する際に AS / 400 上のダブルバイト文字列を使用する場合は、**シングルバイト文字列との混在や故意にスペースを使用することはお勧めできません。**